

## 紹介

### ●勝尾寺文書 第一 大阪府編

大阪府三島郡豊川村の巨刹勝尾寺は寺傳に依れば聖武天皇の御代の開創にかゝり、清和陽成兩天皇の行幸せられたことは三代實錄等にも見えて極めて由緒の古い寺である。而も創建以來幾度か火災に罹つたに拘はらず其の寶庫には幸にも古文書古記録類の多數を今日まで傳へて上は平安朝より下は江戸時代に至るまでの諸種の貴重な史料を襲藏して居る。それで大阪府史蹟名勝天然紀念物保存調査會に於ては當寺の古文書類を調査すること、し昨年五月以來、文學士岸本準二氏、同徳丸福藏氏に依頼して之が整理調査に着手し、今漸く其の全部を完了したので、先づ其の一部を上梓して世に示すに至つたのである。本冊に收むる古文書は最も重要と認められるもの六百四十七通で、これらは主として所領に關するもので、而も當寺の所領莊園は殆んど攝津三島郡に限られ、

他地方のものは少いから、寺領の研究、特に同一所領に關する永い時代の變遷等を研究する上に大に參考となるものである。其他當寺が朝廷の崇敬を蒙り又武家の歸依を受けたことを證するに足る文書も數多くある。大阪府に於ては本寺のみならず府下の古社名刹に就いて其の襲藏に係る古文書類を追々調査刊行することである。吾人は其の實現の一日も早からんことを切望する。(菊版假五七一頁、圖版二〇、非賣品)

### ●淺間文書纂 淺間神社々務所編

纂に『富士の研究』と題する社史全六冊を刊行した淺間神社では、其の事業の繼續として更に富士山及淺間神社に關するあらゆる史料を出版せんとし、先づ其の中心たる淺間神社に關するものを公にしたのが本書である。『富士の研究』編纂の際には諸方面から多くの史料を蒐集したが、叙述の體裁上、それらの史料の中では唯だ一部分のみを載録したものがあり、又全部載録しなかつたものもあつて、折角苦心して蒐集したものを何等利用するところ無く空しく筐底に收藏し了るは頗る遺憾であるから、

それらの史料の全文を世に公にして、一は祭神の神徳を發揚し一は精神文化研究の材料にも資するところあらんとして此の企が起されたのである。その編纂主任は曩きの『富士の研究』に編纂主任たりし井野邊茂雄氏で、先づ本宮及び舊社家の所蔵にかゝる文書記録を纂集して刊行し、其他の文獻は他日續編として世に出だすとのことである。前項紹介の勝尾寺文書といひ、本文書纂といひ、斯くの如く古社寺の文書類が陸續として上梓されるのは學界の爲め頗る欣喜に堪へぬことである。(菊版五七四頁圖版一六頁、静岡縣淺間神社々務所發行、非賣品)(以上松野)

● イスラーム史學に關する二著

Breysig の編輯に成る叢書 *Forschungen zur Geschichte und Gesellschaftslehre* は、曩に、第一冊として G. Vico に関するものを出したが、今や、第二冊として M. Kamil Ayad の *Die Geschichte und Gesellschaftslehre Ibn Halduns, Stuttgart u. Berlin 1930* を刊行した。著書は中學生の頃より、イブン・カルドゥーンの著作に親炙した

と云ふだけに啓發される所が多かつた。序論の他、本文を三部に分け、第一はカルドゥーンの新學問の起源と目的とし、史的背景、彼の生涯と業績、彼以前のイスラーム精神の發展、彼の信仰と智識、彼の新學問を詳述し進んで第二は彼の史學、第三は彼の社會學を論評して居る。その裡、カルドゥーンを中心思想と見做すべき *asabiya* (公共心) に就いては特に仔細に研討するところがある。即ち、これを自然の力とさへ見んとし(一一〇頁)、國家の擴大、永續と然らざるとはこの *asabiya* の強弱如何に據るとし(一五二頁)、且つ個人の力との關係(一八三頁)などを説いて居る。尙、著書は Mc. G. de Siane の佛譯を引用して居る様であるが、屢々アラビヤ原典に比較して、原意は斯くあるべしと示して居るなど、用意の周到なるを思はしめる。

次に、Oxford のアラビヤ語の教授 D. S. Margoliouth の *Lectures on Arabic Historians, Calcutta 1930* が公にされた。これは一昨年二月 Calcutta 大學に於ける講演を纏めたもので、總説、イスラーム以前の歴史、アラビヤ